

## 神奈川県スポーツ賞

## ●レスリング（グレコローマン）●

いのうえ ともひろ  
**井上 智裕** (35 歳)



第 77 回国民体育大会栃木大会において、成年男子グレコローマン 72 kg級で優勝し、神奈川県代表として 4 大会連続の優勝を果たした。

兵庫県神戸市出身で育英高等学校時代は、インターハイや国民体育大会など数々の全国大会で活躍し、高校卒業後は日本体育大学に入学。活動拠点を神奈川県におき、全国トップ選手として名を馳せる。

大学卒業後は母校の育英高等学校の教員として、選手と指導者の 2 足の草鞋で活動しながら、2012 年ロンドンオリンピック出場を目指すも叶わず、引退を考える。

しかし、同年に開催された全日本選手権での初優勝をきっかけに 2013 年育英高等学校を退職し、環境を変えて再出発した。2016 年 3 月のリオデジャネイロオリンピック・アジア予選で優勝し、見事オリンピック出場の切符を勝ち取り、本大会では 5 位入賞を果たす。

2017 年より神奈川県相模原市に本社を置く「富士工業株式会社」に入社し、コーポレートブランド「FUJIOH」所属選手として活躍しており、神奈川県代表として出場した第 72 回国民体育大会愛媛大会の優勝を皮切りに 4 連覇を達成。神奈川県のスポート振興に大きく貢献した。

神奈川県ゆかりのオリンピック井上選手の今後の更なる活躍に期待する。

FUJIOH  
[横浜市在住]

## 神奈川県スポーツ賞

### ●水泳（200mバタフライ）●

ほんだ            ともる  
**本多            灯** (20歳)



第 98 回日本選手権水泳競技大会の競泳において、男子 200mバタフライで圧巻の 3 連覇を果たした。

水泳は家族の影響で幼稚園から始め、小学 4 年生で全国大会に初出場すると、鶴見大学附属中学校在学時に中学 3 年生で全国大会初優勝を達成した。同中学校卒業後は日本大学藤沢高等学校に進学し、2017 年から 2019 年の国民体育大会に神奈川県代表として 3 年連続出場し、個人・団体に通算 5 回優勝したほか、2019 年の世界ジュニア水泳選手権で準優勝を飾り、若手有望選手として注目を集める存在となった。

高校卒業後は日本大学に進学し、記憶に新しい 2021 年の東京 2020 オリンピック競技大会では銀メダルを獲得した。2022 年の日本学生選手権大会では 5 冠達成、世界水泳では銅メダルを獲得するなど、その才能を開花させ世界レベルの選手へと成長した。

今注目のスイマーは 2 年後の 2024 年パリオリンピック競技大会に向けてこれからも進化し続ける。

日本大学 3 年生 / アリーナつきみ野スポーツクラブ  
[横浜市在住]

## 神奈川県スポーツ賞

### ●陸上競技 110mハードル●

いずみや しゅんすけ

泉谷 駿介 (22歳)



今年6月に行われた第106回日本陸上競技選手権大会において、男子110mハードルで2連覇を果たした。

横浜市立緑が丘中学校への進学を機に陸上競技を始めた。当初は短距離走種目に取り組んでいたが、様々な種目を経験する中で跳躍種目の才能が開花し、種目の幅を広げた。

武相高等学校進学後は、八種競技へ挑戦し、3年次では全国インターハイの八種競技で優勝、三段跳びで3位入賞し、さらには神奈川県選手団の一員として国民体育大会に出場し、三段跳びと110mハードルにおいて好成績を収めた。

順天堂大学進学後、東京2020オリンピック競技大会日本代表選手選考競技会において、110mハードルで13秒06の日本新記録及びアジア歴代第2位の記録を樹立して優勝。東京2020オリンピック競技大会に出場し、日本勢57年ぶりの準決勝進出という結果を残した。

日本の陸上界におけるハードルの第一人者でありながら、走り幅跳びや三段跳びなどの跳躍種目も得意としており、トップクラスの記録を持つ三刀流の選手である。

ブダペスト2023世界陸上競技選手権大会、パリ2024夏季オリンピック、東京開催の2025年世界陸上競技選手権大会と続いていく世界大会へ、今後も複数種目に取り組みながらさらなる飛躍が期待される。

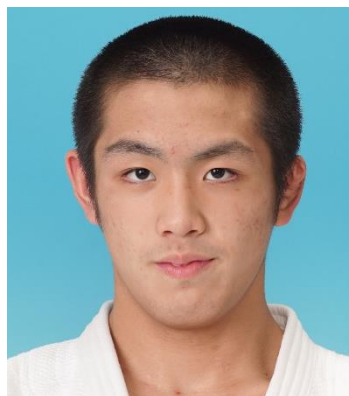
住友電気工業株式会社  
[千葉県在住]

## 神奈川スポーツ賞

### ●柔道●

きはら けいと

**木原 慧登** (17歳)



幼少期から柔道をはじめ、小学校6年生時には、全国小学生学年別柔道大会50kg 超級で優勝するなど、全国で活躍する。

中学校から柔道の名門、東海大学付属相模高等学校・中等部に進学。中学1年の時に近代柔道杯全国中学生柔道大会で2位、中学2年生では、全国中学校柔道大会個人戦73kg 級で優勝を収める等、飛躍を遂げる。

東海大学付属相模高等学校へ進学すると、全国高等学校総合体育大会柔道73kg 級において1年生ながら優勝を果たす。2年生になった本年度、全国高等学校総合体育大会柔道73kg 級において優勝し、見事大会2連覇を成し遂げた。木原選手は、「初戦から一つずつ、しっかり戦おうと思っていた。ライバルたちから狙われる立場と分かっていたが、チャレンジャーのつもりで、「投げる」、「一本」をとることを考え、大きな柔道を心がけ、貫いた」と語る。

全国高等学校総合体育大会終了後には、世界カデ柔道選手権大会で優勝、全日本柔道体重別選手権大会においても優勝を収めている。

既に世界を舞台に活躍している木原選手は、オリンピックをはじめ、今後の世界での活躍が大いに期待される。

東海大学付属相模高等学校2年生  
[相模原市在住]

## 神奈川県スポーツ賞

### ●自転車●

はやせ くみ  
**早瀬 久美** (47歳)



今年5月にブラジルで行われた第24回夏季デフリンピック競技大会において、自転車競技のマウンテンバイク種目に出場し、銀メダルを獲得した。

デフリンピックとは、4年に1度開催される聴覚障がい者にとっての世界最高峰の国際競技大会であり、1924年に第1回大会が開催された。

大分県出身で、現在は横浜市在住。聴覚障がい者として日本で初めて薬剤師免許を取得し、昭和大学病院で薬剤師として勤務しながら競技活動に取り組んでいる。

スポーツファーマシスト（最新のアンチ・ドーピングに関する知識を持った薬剤師）として2009年第21回大会（台湾）に携わったことがきっかけで、自身も選手として大会出場を目指すことを決意。趣味であった自転車に本格的に取り組み、マウンテンバイク女子が初めて導入された、2013年第22回大会（ブルガリア）でデフリンピック初出場を果たす。同大会で銅メダルを獲得すると、続く2017年第23回大会（トルコ）でも銅メダルを獲得した。

2022年第24回大会では、マウンテンバイク女子に過去最多の8カ国12名が参加する中、強豪選手との競り合いを制して、銀メダルを獲得、3大会連続でのメダル獲得は、1924年第1回大会から実施されている自転車競技において、初の快挙となった。

【横浜市在住】



## 神奈川県スポーツ賞

### ●硬式野球●

#### やきゅうぶ ENEOS野球部

第93回都市対抗野球大会において9年ぶりの優勝を果たし、黒獅子旗を奪還。史上最多12回目の栄冠を獲得した。

「ENEOS野球部」は、日本石油野球部が都市対抗野球大会に1951年に初出場して以来、今回で52度目の出場を誇る強豪チームである。今シーズンは「勝！～前勝善勝全勝～」をチーム・スローガンに掲げ、「勝つ」ことにこだわり、洗練されたチームプレーを武器に臨んだ大会であった。

初戦から準決勝まで先制を許さず、危なげない試合運びを展開した。決勝では、東京ガス（東京都代表）に今大会初めて先制を許し苦しい展開となったが、4点をリードされて迎えた6回、度会選手の3ランホームランで1点差に詰め寄ると、続く丸山選手、小豆澤選手のソロホームランで一挙5得点をあげ逆転。投げでは関根投手、加藤投手、長島投手、本間投手の継投から、最後は大黒柱の柏原投手が締め、決勝では無敗を誇る勝負強さを今年も示すこととなった。

「勝つ」ことにとことんこだわった「常勝ENEOS野球部」は、第94回大会で都市対抗野球大会連覇を目指す。

[所在地 横浜市]

## 神奈川県スポーツ賞・オリンピック賞

### ●フィギュアスケート●

かぎやま ゆうま

**鍵山 優真** (19歳)



今年2月に行われた北京2022オリンピック冬季競技大会のフィギュアスケートでは初出場ながら銀メダルを獲得し、団体戦でも銅メダルを獲得するなどのめざましい成績を残した。

父親の影響で幼いころからスケートに親しみ、5歳から本格的に競技を始めた。

中学校1年生時に出生地である神奈川県横浜市へ転居、横浜銀行アイスアリーナを練習拠点として活動した。横浜市立六角橋中学校を卒業後、星槎国際高等学校横浜に入学。今年3月に卒業し、現在は中京大学に在学している。

ジュニア時代には、ローザンヌ2020ユースオリンピックで優勝するなど着実に実績を積んできた。

2021年3月の世界選手権では自己ベストを更新して初出場ながら3位の羽生選手を上回る2位に入った。シニア2年目の2021-22年シーズンはグランプリシリーズの第3戦イタリア大会と第5戦フランス大会で2連勝し、世界ランキングで初の1位となるなど大きく力をつけている。

北京2022オリンピック冬季競技大会においてはショートプログラムで自己ベストを大きく更新する108.12点で2位、日本勢最上位であった。

すでにシードでの出場が決定している12月の全日本選手権や、金メダル獲得を目標に掲げるISU世界フィギュアスケート選手権大会2023など、今後の活躍に大いに期待がかかる。

オリエンタルバイオ/中京大学1年生/  
[愛知県在住]